

豊かな心の現状

健やかな体の現状

本校は運動場が狭く、休み時間に体を動かす機会が少ない。また、学校の体育の授業以外で、運動をする機会が少ない児童も多い。そのため例年スポーツテストの結果は、堺市平均を下回る項目が多い。その中でも反復横跳びは全学年が堺市平均を下回っており、2学年以上下回っている学年もある。そのため敏捷性を中心に、体力の向上を養う必要がある。

全教職員で「対話 あいさつ なかま」をキーワードに、自ら学び、心豊かにともに育つ児童の育成に取り組んできた。確かな学びでは、「対話」に重点を置きながら、「聞き上手」「話し上手」な児童を育てる。また、児童が主体的・対話的な深い学びができるような授業づくりに取り組んできた。今後、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学び、児童自らが学びを進めている「学びのコンパス」の実現に向けて取り組んでいく。R-PODCA学習法を効果的に機能させながら、児童の「知・徳・体」をバランスよく育てていきたいと考えている。鳳小学校のすべての子どもたちにとって居場所や出番のある学校となるよう取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から(年度末)

継続したいあいさつの取り組みで、「自分から」「大きな声で」あいさつができる子どもが定着してきた。引き続き登下校の安全指導も含め指導をしてほしい。ICTの活用について、児童がツールとして使いこなしていると感じる。並行して、鉛筆を持つシートなどに自分で書いて考えるという指導も大切にしたい。授業が終わった後や休み時間など、本を讀んでいる児童が多く見られた。時間をうまく使っていると感じる。

メディアリテラシーについて、児童だけでなく、保護者にもしっかりと啓発をしてほしい。授業中も休み時間も、子どもたちがいそいそと活動している様子がみられた。